

【イワシ活餌の買い回し事業について】

E： 私はカツオの一本釣り漁船の船主です。

カツオの一本釣り漁業にとって、命とも言えるのは、カツオの餌となるイワシです。このイワシを土佐湾に入れて、高知のカツオ漁船が地元から出港してほしいということで、一昨年の1月から地元の佐賀漁港でイワシ活餌の買い回し（イワシを遠方の漁場から運び、小割網に蓄養し、漁業者に供給すること）を再開しました。

この買い回しというのは、地元や周辺でイワシを獲るのが難しいので、東北地方の餌場から運搬船でイワシを運んできますが、そうなれば非常にコストも高いものです。私は、愛媛県愛南漁協の深浦漁港で、この買い回し事業を15年間やっております。しかし、どうしても地元へ帰ってほしい、地元で灯火を明かしてほしいという強い要望もあり、佐賀に戻ってきました。

しかし、買い回しはリスクの高い事業です。それは、カツオ漁場を求めてカツオ漁船は日々移動する（ので、動向を見極め活餌を運んでこなければならない）、また、佐賀漁港は伊与木川が流れ込んでいるため、大水が出る（とイワシが死んでしまう）という地理的に不便なところで、以前に4年間佐賀漁港でいろいろ試しましたが、うまくいかなかったので、身を引いていました。今回、再開するにあたって、70歳を過ぎてのことで、いろいろと悩みましたが、自分の息子も後継者となり、また、漁師仲間に地元で暮らし、地元から漁に出てもらいたいということで必死になって取り組んでいます。

ところが、今年の3月11日の津波で、自分がその日に運んできた餌が、本当に悲惨なことになりました。しかし、これをやめると、せっかく県からいただいた補助も町などの支援も意味がなくなるのではないかということで、もう一度復旧させてやりたいと、再度取り組んでいます。今は、カツオ漁船はもう地域を離れてトカラ列島に行っていますが、この18隻の船団が土佐に帰ってきたときには、また復活させようじゃないか、ということで取り組んできております。

今後の課題としては、今、佐賀漁港には立派な冷蔵庫があるんですが、漁師が釣ってきた魚を加工するところがないのが一番残念なんです。是非、これをお願いしたいです。

知事： このイワシ活餌のいけすは大ヒットですね。一挙に愛媛県の深浦漁港の水揚げ量を逆転しましたからね。佐賀に活餌のいけすがあることで、イワシ活餌を求めて、佐賀漁港にいろいろな船団が入ってくるようになったことで、町全体が活気づいてきますよね。魚が地元にあがればあがるほど、地域の経済も活気づきますからね。素晴らしいことだと思います。

イワシ活餌の買い回し事業は、本当に難しいんだそうで、黒潮町長さんも熱心に取り組まれていましたが、Eさんのノウハウのおかげで出来たんだと、水産振興部から話を聞きました。大変お世話になり、本当にありがとうございます。

今後、県内に買い回し事業ができる港を増やしていきたいと思っています。そうすれば、

高知県全体の水揚げ量があがって、経済の活性化につながっていただろうと思っています。  
今後ともまた、県の職員にもノウハウの伝承をお願いしたいと思います。

加工の場や保存の場の整備というのは、また、黒潮町長さんとも相談させていただいて、  
前向きに対応させていただきたいと思います。